

令和7年度 第2回 宇治市観光振興計画策定委員会 議事録

日時 令和7年9月25日（木） 13時～15時

場所 ゆめりあうじ 4階会議室

出席者

宇治市観光振興計画策定委員会

委員長 坂上 英彦

副委員長 中村 藤吉

委員 浅井 栄一

〃 堀井 長太郎

〃 神居 文彰

〃 佐脇 至

〃 若林 浩吉

〃 桑田 知恵子

〃 奥野 美奈子

〃 岸田 秀紀

事務局

産業観光部 部長 脇坂 英昭

産業観光部 副部長 前田 聖子

産業観光部 観光振興課 副課長 北 久美子

産業観光部 観光振興課 観光企画係 係長 西井 利治

産業観光部 観光振興課 観光企画係 主任 永井 理帆

産業観光部 観光振興課 観光企画係 主事 田島 佳奈

資料

- ・令和7年度 第2回 宇治市観光振興計画策定委員会 次第
- ・宇治市観光振興計画策定委員会 委員名簿
- ・宇治市観光振興計画策定委員会設置要項
- ・宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項
- ・前期アクションプランの総括
- ・第1回策定委員会での意見
- ・ワーキンググループでの意見
- ・宇治市観光動向調査の結果
- ・中期アクションプランの骨子案

1. 開会

2. 議事

・前期アクションプランの総括

事務局より資料1について説明

委員長：

前期アクションプランの総括について説明いただいた。3か年着実に取り組んできたということが理解できる内容であったかと思う。ご質問・ご意見等あればお願いしたい。

委員：

前期分の実施内容がよく分かった。その上で3点質問・発言する。1点目、資料の中で数値があるものとないものがある。例えば12ページ、やんたんライナーの利用人数がどうだったのか分かればよいと思う。2点目、文教大学等がサテライトキャンパスを造っているが、その記載がここにはない。文教大学は観光事業から手を引いたのか。3点目、前期分のそれぞれの総括はあるが、各事業に対する評価、プラス面とマイナス面の洗い出しはされたのか。観光全体のトレンドとして、例えば関西圏からの日帰りが多かった、関東圏からの観光客が多かったなども分かればよいと思った。

事務局：

数値等が漏れており申し訳ない。今後、記載も含め検討する。文教大学との連携について、事業を選んでいく中で記載できていなかった部分はあるが、文教大学と観光振興課との交流等、様々な取組はしている。

委員長：

3点目についてはどうか。

事務局：

各事業の評価を全くしていないわけではないが、資料に記載できていなかった。今後、課題や問題点等も記載する必要があると認識しており、記載の方法について改めて検討していく。

委員長：

委員より課題や問題点を記載する必要性についてご指摘いただき、有り難い。他にないか。それでは、次の議事に移る。

・中期アクションプランの方向性

事務局より資料2 資料3 資料4について説明

委員長：

資料2～4、中期アクションプランの方向性について説明を受けた。前回よりかなり細かい分析で、テーマごとに今後必要な視点も整理されている。ご質問・ご意見等あればお願いしたい。

委員：

ゴミ問題について。前回の会議で言ったかもしれないが、うちの商店街ではそれほどゴミ問題は発生していないという印象であった。あれから2か月ほどたち、商店街の商店にヒアリングしてみたが、今もゴミがあふれているという状況ではない。ただ、観光客が各商店にゴミを渡す行為が目立つ。商品を買ってくださるお客様なので渡されたゴミは回収するが、ゴミの量が多くなってきた。ポイ捨てがない代わりに水面下でこのようなことが起こっている。ゴミ箱をどうするかという質問を各商店からいただいているので、ゴミに関してのある程度の方向性は決めた方がよい。ゴミ箱を設置するというになれば管理の問題も出てくる。ワーキンググループでの意見の中にあった、おしゃれな持ち帰りバッグの商品開発というのも一つの手法かと思う。仕組みづくりが必要だと思う。

事務局：

ゴミに関しては、市としても重要な問題と捉えている。ゴミ箱を設置するか、それともワーキンググループから出たような仕組みをつくる中でゴミを減らしていくか、その辺り皆様のご意見を伺いながら方向性を考えていきたい。

委員長：

鉄道会社ではゴミ問題にどう対応しているのか。

委員：

京阪本線ではゴミ箱を設置しておらず、持ち帰りを原則としている。

委員：

近鉄では大きい駅にはゴミ箱を設置しているが、小さい駅には置いていない。

委員：

昨日、傘立てをしまうのを忘れていたのだが、1時間ほどでゴミでいっぱいになってしまった。店を出している紙コップなどを市のゴミ処分に出すと、営業用のゴミは持ち帰れないと言われることもある。お客さんにゴミを渡されたときは、自身で処分するようお願いしている。分別から処理まで考えていかなければならないと思う。

委員長：

市として一定のルールを決めていく必要があるかと思う。

委員：

J R 宇治駅前のお店についてはゴミ問題の発生はない。ただ、平等院店の方はテイクアウトもしているので、平等院前駐車場でバスに乗る前に捨てるといったことがたびたびある。なかでもスターバックスのカップなどが多く捨てられており、スターバックスのスタッフが毎日回収に行っているという話を聞いた。

分別も難しい。事業用ゴミとして出しているが、カップのふた、ストローはどうすればよいかなど、もう少し細かく教えていただければ有り難い。ゴミ箱があふれていてもさらにその上にゴミを置かれるので外に出せず、結果ポイ捨てにつながる。市のゴミに関するルールと方向性について教えていただければと思う。

事務局：

一般ゴミについて、本市では可燃ゴミと不燃ゴミ、プラスチックゴミという形で分けている。事業系ゴミについては今すぐお答えができない。ゴミ問題、そしてトイレの問題については今後も取り組んでいく必要があると思う。宇治橋西詰のトイレについては10月半ばから改修を始める予定である。委員長にお聞きする。嵐山ではどんなゴミ対策をしているか、もしご存じであれば教えていただきたい。

委員長：

対策が難しく、きれいに整理できている状態ではない。永遠に議論と試行錯誤をされている感じがある。行政が所有している公園等の場合は税金で処理できるが、民間のところでのゴミ問題は非常に難しいと思う。

事務局：

すべてを行政で担うというのは適切ではない気がする。ある程度、民間事業者と協議して進めていく必要があると思う。

委員：

観光ゴミではあるものの、ゴミはそれぞれ事業者が回収する受益者負担が基本だと思う。京阪、J Rでは安全対策としてゴミ箱を置かないのであれば、全市的にもゴミ箱を減らすのかどうかという辺りも考えていかなければならない。

今回観光動向調査の中で、こういった手段で宇治に来たかという質問が面白いと思った。J Rや京阪の利用が多いが、この中での詳細な分析はしているのか。J Rの京都駅から来たのか、京阪の祇園四条駅から来たのか、歴史ルート、文化ルートを辿って来たのかなどを知りたいが、それは分かるか。

事務局：

今回の観光動向調査において宇治に至る手段は調査しているが、出発地がどこかということまでは調査していない。

委員：

戦略を立てるためにそういった分析も必要だと思ったのでお聞きした。観光バスの利用が減ってきたということは、団体客が減ってきたものと捉えてよいのか。

事務局：

地域別の差がある。北海道、東北からなどの遠方であれば観光バスを利用しての団体客が多いが、移動の便利な関東圏から西になってくると個別旅行がかなりの数を占めている。

委員：

今年は関西万博の影響で観光バスが足りないと言われているが、来年以降もこういった傾向なのか。運転手不足もあるので公共交通機関をどのように組み合わせながら来ていただくか、また、どこから来たかということも非常に重要になると思う。

委員：

観光が地域経済に及ぼす影響として、宇治市の場合、宇治茶関連産業にも好影響があるというのが他の地域とは違う。観光をうまく使って宇治茶ブランドを維持・向上させていくことが大事だと思う。茶づなミュージアムの中で宇治茶の歴史等の情報を発信していると思うが、入場料を払わなければならない。施設の運営上致し方ないのかもしれないが、宇治茶の歴史等を発信することによって宇治茶産業が潤うのであれば無料にしてもよいのではないか。他の産地と宇治茶がどう違うのかという情報をしっかり発信してブランド力の維持・向上に力を入れていただければと思う。観光動向調査の中で体験型プログラムについて触れていたが、観光消費額を増やしていく上でも非常に重要だと思う。ただ、体験型プログラムを提供する事業者がすぐに現れるとは限らない。例えば提供してもらうにあたってセミナーの開催や、補助金を用意するなどの手立てを講じれば、体験型プログラムの取組が進んでいくのではないか。

委員長：

茶づなの無料開放という大胆なご提案があったが、いかがか。

事務局：

歴史公園茶づなミュージアムは民間に運営をお願いしている。無料にすれば循環型になりお茶のブランド力の維持・向上につながっていくというご意見も頂戴した一方、体験型プログラムについてもお話しいただいた。現在茶づなでは力を入れて体験型プログラムを取り組んでおられ、インバウンドを中心に非常に好調で、目標を大きく超えてご参加いただいている。他の市内事業者にも体験型プログラムを提供していただくための取組について検討していきたい。

委員：

観光ボランティアは日本人向け、外国人向けどの程度機能しているのか。

事務局：

宇治茶巡りガイドツアーや宇治川合戦絵巻ガイドツアーを開催しているが。詳細な参加人数等についてはすぐに出てこない。

委員：

昔は1時間コース、2時間コースなどあったと記憶している。そういったコースがあればバリエーションに富んだ体験型プログラムが構築できるのではないかと、先ほどの委員のお話を聞いて思った。

委員：

アンケートの取り方について聞きたい。外国人観光動向調査報告書の26ページを見ると、宇治観光の目的として「宇治茶（購入・体験）」が65.6%と高い。だが、50ページの土産品購入をした施設の回答にお茶の専門店がなかった。選択肢の中に専門店を入れることが必要ではなかったか。

事務局：

今回の調査では選択肢の中に専門店という記載はなかった。次回選択肢には入れておきたい。

委員長：

今回の課題ということでお願いしたい。

委員：

トイレについて。当社は京阪宇治駅前に事務所を構えているのだが、観光客にトイレはどこにあるかと聞かれる。地図にも書いてあると思うが、見つけづらいのか、問い合わせの数が多い。京阪宇治駅が観光シーズンに備えてトイレの改修工事をしているが、トイレは数より質、つまり清潔さが大事だと思う。トイレを多数設置すればよいというのではなく、清掃の仕方が重要だ。宇治橋西詰のトイレが水浸しだったことがある。清掃のときに水を撒くと目地にバクテリアが発生して匂いの原因になるので、水清掃はしないのが基本だ。清掃の発注は入札で決まると思うが、価格だけではなく上質を突き詰めないといけないと思う。清掃員の身なりも重要だと思う。きれいな身なり、かつ笑顔で清掃されていると観光客も気持ちよく、清掃員の方のやりがいにもつながるのではないか。

委員：

外国人観光動向調査の26ページ、宇治観光の目的として前回なかった「アニメ」が7.6%まで伸びているのは興味深い。これは聖地巡礼のことか。

事務局：

「アニメ」という括りなので詳細は分からないが、「響け！ユーフォニアム」の影響が強いと思う。聖地巡礼も目的のひとつだと思う。

委員：

「響け！ユーフォニアム」は外国でも放映されているのか。

事務局：

放送については分からないが、観光案内所に来られたアジア圏の方に「響け！ユーフォニアム」の探訪マップはあるかと来られることが多い。

委員：

「響け！ユーフォニアム」の聖地巡礼をする方の中には欧米人もいるが、ほとんどが中国人だ。中国ではNHKが視聴でき、「響け！ユーフォニアム」の3期がNHKで放映されたため、中国人のファンが多いのではないかと聞いている。また来年は京都アニメーションが上海で「響け！ユーフォニアム」の演奏会を実施するようだ。

委員：

宇治ではそういう演奏会はなく、主に聖地巡礼なのか。

委員：

そうだ。ただ、今年の6月に宇治文化センターで開催された公式イベントは中国の方がチケットを多く買ったと聞いている。

委員：

それは日本のアニメ全体の影響なのか。それとも、特定のアニメが中国の方にハマったということか。

委員：

元々、日本のアニメはクオリティが高いが、なかでも「響け！ユーフォニアム」が中国の方の心を揺さぶったのだらうと思う。

委員長：

それでは、最後の議事に移る。

・中期アクションプランの骨子案

事務局より資料5について説明

委員長：

中期アクションプラン、計画の体系の変更案について説明いただいた。ご意見等あるか。

委員：

ゴミやトイレの話が前段で出た中、それもアクションプランに盛り込んでいくとおっしゃっていたが、観光客や地域の事業者の声でもあるため、「4 おもてなしのまちづくり」の骨子に行政と地域でゴミとトイレの問題について考えていく旨を文章として明記し、情報を共有しながら取り組んでいった方がよいのではないかな。

委員長：

この策定委員会で出た意見を計画に反映させることが重要であるというご意見であろうかと思う。他にいかがか。

委員：

資料3、ワーキンググループでの意見の中に「宿泊施設が少ない」というものがあったが、日帰りのお客様が多いのが大きな要因の一つであると思う。観光振興で目指すのは消費額の増加、経済波及効果だ。宿泊施設があると滞在時間の延長や、消費拡大、宇治市内、山城地域の周遊もできると思う。そこが肝の部分だと思うが、アクションプランのどこにも記載がない。行政が現在どのような取組をしているのか、今後の方向性も含め記載すべきだと思う。発信の強化だけでなく、災害時における観光客の受入体制も含め行政として課題と思っている内容を記載していく必要がある。ホテルの建設だけでなく、農泊や民泊、寺泊などを行えば修学旅行生の受入先にもなるであろう。将来のファンづくりのため、戦略として取り組んだ方がよいと思う。

先ほどトイレの話をしたが、女性用トイレの数が少なすぎるという問題は深刻である。また、清掃の仕方に応じた設計をしなければならないと思う。このことも含め、先進事例を参考にもっと研究し上質な観光地にしてもらいたい。

委員長：

宿泊施設の検討経過はどうかというご質問であったかと思うが、いかがか。

事務局：

以前宿泊施設の誘致の話は出ていたが、コロナ等によりなくなった。一方、民間事業者が宿泊施設を造る予定があり来年の秋ごろに完成すると聞いている。また農家や寺院などでの体験型プログラムとセットになった宿泊によっても消費が増えると思うので、それも含めて考えていきたい。

委員：

「源氏物語のまち」のブランド力強化のところの文言について。大河ドラマ終了につき、大河ドラマという文言が消してしまうと、記憶からも消えてしまうのではないかな。例えば“大河ドラマでかつて注目を浴びた”などの文言があれば、大河ドラマと「紫式部ゆかりのまち」がつながるのではないかなと思った。

委員：

従来からある春の宇治川さくらまつり、6月のあがた祭、秋の宇治茶まつりなど、地域に根差した伝統的な催しに触れられていないように思う。文言として入れた方がよいのではないか。

事務局：

今おっしゃった宇治川さくらまつりなどの伝統行事について、骨子の大きな項目には入れられていないがアクションプランには入っている。次回により詳細なアクションプランもお示しできればと思う。

委員：

地域住民が観光にどう関わるかが重要である。また、アクションプランにイベントを同列で並べるよりも四季折々の中心になるイベントを大きく掲載してから派生的なイベントを紹介するような形の方が効果的だと思う。

「3 広域的な観光の推進」について。新名神高速道路の開通やアウトレットモールの開業に伴い、そこを訪れた人々をどのように宇治に引っ張ってくるかを考えることが大切ではないか。「3 広域的な観光の推進」の項目にインフラ整備についても提言する必要があるかと思った次第だ。

委員長：

表現方法は事務局に検討してもらいたい。

委員：

中期アクションプランということで、基本的には前期を踏襲しながらこれまで出た課題等を踏まえて修正していくものと思うが、前期アクションプランの総括から見えてきた課題や、観光動向調査の結果、ワーキンググループの意見等を反映する形で具体的な施策を入れていただきたい。

委員長：

次回に期待したいと思う。他にいかがか。

委員：

骨子案の中テーマ全体について、もう少し具体的に書けないか。KPIの設定などはしないのか。

事務局：

具体的な内容はアクションプランに掲載する。中テーマには様々な可能性を含めている部分があるため、抽象的な書き方になっている。

委員：

ニンテンドーミュージアムが開館してから小倉を訪問される方が増えているが、乗り降りだけの人が多いのもっと周遊ができればよいと思う。ゴールを何にするか、KPIを設定して進めていくのもよいのではないか。

委員：

「5 効果的な魅力発信」の①「ビッグデータを活用したマーケティングの強化」について、前期の中でビッグデータを活用してどうなったかということは先ほどの総括でなかったと思う。ビッグデータを使うのはとても難しい。なぜかと言うと、活用以前にデータ自体が集まらないこともあるからだ。前期の計画期間が終わったわけだが、何を情報として蓄積していくのかというところを、中期アクションプランから始めた方がよいのではないか。そうしなければビッグデータの活用まで行き着かないと思う。

事務局：

本計画の策定時、将来はビッグデータを活用した世界になっていると期待していたが、現状は活用ができていない。ただ、ビッグデータを持っておられる事業者もいるので共有して効果的に施策に反映していきたい。

委員：

第1回の策定委員会では宇治茶のプレミアム化等、お茶に関する意見が多かった。良質なものが求められている中で抹茶ブームになったが、宇治の素晴らしい抹茶があまり定義化されていない。500円程度のものから1万円のものまで、すべて宇治抹茶で統一されている。令和5年に京都府茶業会議所として地域団体商標「伝統宇治碾茶」を農林水産省に申請しているが、なかなか認可されない。行政の力で後押ししていただければと思う。認可されれば宇治茶のプレミアム化につながり、消費者にとって分かりやすい商標になる。

事務局：

伝統宇治碾茶の取組をされていることは存じ上げていたが、我々の応援によって停滞しているものが動くかどうか分からない。ただ、事務局として何かできることがあれば協力したいと思う。

委員：

次回で結構だが、関西万博は宇治観光にどの程度影響があったのかを知りたい。
また、お茶席体験において手持ちの茶筌が少ないことに困っている。茶筌は3～4日でだめになるが、予備の茶筌がない。お茶席体験を提供するとなると、そういった部分の支援も必要になると思うが、その辺りいかがか。

委員：

茶筌を制作できる場所は、奈良県に1社しかないと聞いている。状態の良くない日本

産の茶筌も出てきている。竹は寝かせなければならないものだが、それもできていない。体験についてであるが、観光動向調査を見ると体験コンテンツに魅力に感じない日本人が増えている一方、インバウンドはお茶に関する体験をしてみたい割合が高い。うちに来られるお客さんにしても、土日は6割、平日は7～8割がインバウンドである。先ほどのトイレ問題であるが、清掃しか方法がない。頻繁に清掃する以外、きれいなトイレを保つことはできないと思う。

委員長：

他にはよろしいか。次回はアクションプランを含めて提示いただけると理解してよいのか。

事務局：

そのとおりである。

委員長：

ゴミ問題、体験型プログラムの促進、地域住民参画型の観光地づくり、災害時の対応、伝統的な祭りの記載等、「量から質へ」多数のご意見をいただいた。それらを含めてアクションプランを整理いただければと思う。課題については現状とずれていると思うので、整理し直した方がよい。現計画の課題は情報の到達度、交通渋滞やトビケラによる印象、夜のにぎわいなどテーマが細かいので、今回の見直しのポイントを整理し、課題を解決するために全体の体系とアクションプランを変更したというストーリーにされると非常に分かりやすくなる。他にご意見がなければ「その他」に移る。

3. その他

委員長：

何かご意見はないか。

委員：

他市で観光ゴミ問題が解決、あるいは改善している所はないか。ご存じの事例があれば教えてほしい。

委員長：

一番難しい問題であり、依然として研究のレベルだ。答えはまだ出ていないように思う。

委員：

ゴミというのは持ち帰るものではないのか。

委員長：

基本的にはそうだが、それが本当に正解かは分からない。

委員：

ワーキンググループでの意見の中にあった持ち帰りバッグの開発はよいと思う。

委員：

京都市などでは、あえてゴミ箱を設置している。ゴミを圧縮する機能を持つゴミ箱で、ゴミが溜まると回収業者に通知が届く仕組みになっている。これらは、コストもかかるため、宿泊税や観光税等を導入したいという自治体が増えてきている。どちらにせよ、ゴミ問題は一事業者では難しいと思う。

委員長：

事務局の方で事例をあたって、次回に報告いただければと思う。

委員：

小倉地区にニンテンドーミュージアムが開館され、それとともに抹茶を求める人が多くなった。小倉にあるお茶のお店は8時半に開くが、中宇治にあるお茶のお店は9時か10時開店である。タクシーで抹茶を買い巡る観光客もいるらしい。次回の観光動向調査では、移動手段に「タクシー」も入れてはどうか。また、和束町と宇治田原町を結ぶトンネルが出来てから日帰り観光客が増えたと聞いたこともある。

委員長：

他にはよろしいか。それでは、これにて令和7年度第2回宇治市観光振興計画策定委員会を終了する。委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。進行を事務局にお返しする。

事務局：

委員の皆様におかれては活発にご議論いただき、ありがとうございました。本日頂戴したご意見を素案に反映していきたい。次回は11月上旬を予定しているので、よろしくお願い申し上げます。

4. 閉会

・脇坂部長より挨拶